

# 卒業の「卒」の文字とは

下野市教育委員会 生涯学習文化課

3月は、いろいろな方々がそれぞれの卒業を迎える季節です。学校生活で3回か4回の卒業を迎え、定年で仕事を離れる時も卒業の言葉が使われることがあります。

毎年、この時期になるとよく使う言葉であり、映画やドラマ、歌のタイトルなどにもよく使われる言葉なので、何の疑問も無く使っていると思います。卒業の意味を改めて辞書で調べてみると

- ①「学校の全教科または学科の課程を修了すること。」②「ある状態・段階を通過すること。」③「一つの事業を完了すること」とあります。では、この言葉を分解して一文字ずつ意味を考えてみます。「卒」の字は「卒」とも書きます。音読みは「ソツ」、「シユツ」。常用漢字表内の訓読みはありません。常用漢字表外では「お(える)」、「お(わる)」、「つい(に)」、「にわ(かに)」があります。

「卒業」にも「卒業」の書き方があり、「粹」「碎」「醉」と「粹」「碎」「醉」の文字がありますが、現在は世代によって使い分けがされていると思います。「卒」の字の語源を調べるとこの文字は指事文字で「衣服の襟元の象形に一を付した」ものが字源で、神に使える人や亡くなった人が着る重

なった衣服の襟元を指したようです。「死者の霊が外に出ないように、また、悪霊などが遺体に入り込まないように亡くなった人の襟元を結び留めたこと」がもとの意味のようです。そこから卒は死、終わりの意味となったとされています。

701年に下野朝臣古麻呂が編さんに関わった「大宝律令」やその後、平安時代に編さんされた『令集解』には「喪葬令」とされる葬儀の方法や喪に服す日数などの取り決めがあります。その中で「死」に関する表現があり、「親王または三位以上の死を薨、五位以上は卒、六位以下は死」と称し区別しました。親王及び五位以上の方が没すると治部省から太政官を経て天皇に奏聞が行われました。また、親王及び三位以上の方が夏(6月)に亡くなると水が支給されました。古麻呂は和銅2年(709)12月に亡くなっており、官位が「式部卿大將軍正四位下」と五位以上の貴族階級だったため、『続日本紀』には「卒」と記されています。

この「終わる、終える、済む、完了する、死ぬ」などの意味の他に「しもべや下級の兵士」の意味もあるようです。この衣服は中国の兵馬備の兵士

の服のように下級兵士も着用していたことからこの意味もあつたようです。現代ではあまり使われませんが「一兵卒」という単語があります。この語にも実はさちんとした裏付けがあります。明治時代になり、江戸期の士農工商の身分制度を廃止し、華族・士族・平民と新たな区分が行われた際、旧武士層の中でも足軽以下の下級武士を「卒族」としました。この区分は後の「西南の役」などの発端となる士族の不満の原因となったためか1872年に早々と廃止されましたが、呼び方の一部は残ったようです。何気なく使っている文字も意味を調べると興味深い事がわかります。

指事文字・・・絵として描きにくい物事の状態を点や線を組み合わせ表現した文字  
治部省・・・律令制における八省のうちのひとつ。  
五位以上(貴族階級)の官人の相続・婚姻、喪葬・国忌のほか、外国使節の接待、僧尼の管理などに関する役所。雅楽寮を管轄。